



食協中部

2025年5月23日
(第 30 号)

発行：(一社) 沖縄県食品衛生協会 中部支部
〒904-2155 沖縄県沖縄市美原 1-6-28
☎(098) 938-1835 (FAX 兼用)

食協九州ブロック大会

令和六年
(二〇二四年) 七月十七
日(水) 十八
日(木) の日
程で食品衛生
協会九州ブ
ロック大会が、
宜野湾市の沖
縄コンベン

ションセンター劇場棟で開
催されました。食協が沖縄
県に設立されたのは復帰に
伴って開催された若夏団休
が誘因で、沖縄での九州ブ
ロック大会は三回目になり
ます。今回は六五回目的大
会で各県及び政令都市の持
ち回りです。

来賓祝辞、玉城デニー知事
のビデオメッセージあり、
中部支部の稲福栄子指導員
が新しい時代にチャレンジ
と堤して特別講演を行い、
次いで、沖縄県と福岡県の
指導員体験発表があり、と
どこうりなく大会を開催す
ることができました。ご苦
労様でした。

沖縄大会復帰して三回目



▲九州ブロック大会歓迎の太鼓の舞

くわちい

▼「めんそう
れ」と書いて
「めんそう
り」と読むん
だと言うと若
い人たちは、
とまどうかも
知れない▼沖
縄語の標記については、明
治時代から書き言葉と読み
言葉が変わっていない▼
「てふてふ」と書いて
「ちようちよ」と読むんだ
と言っても理解できない世
代が多数派である▼ちなみ
に「めんそうれ」は「あつ
ちにどうぞ!!」と言う意味
だと話すとますますちんぷ
んかんぶんになる▼だから
間違うはずがないと自信を
持って「めんそうれ」が採
用されたのである。もし
「めんそうり」と表記する
と「めんそうい」としか読
まない▼「めんそうれ」と
書いて「めんそうり」と読
むのは当たり前だ!!と考え
たのだが殆どの人が「めん
そうれ」と読むのだ▼では
「めんそうれ」と読む表記
は? 「めんそうらい」であ
る。
(源心)

食協九州ブロック大会 盛大に開催される



▲太鼓の舞で歓迎



▲九州ブロック大会の様様



▲玉城デニー知事のメッセージ



▲獅子舞が皆さんの幸福祈願



▲次期大会の福岡市の皆さん



▲大会を支えたスタッフの皆様

食の安心・安全をめざしてガンバロー！！

九州ブロック大会・ 連絡協議会に参加して

指導員部会長 平江 俊和

日本食品衛生協会は北海道・東北ブロック・関東甲信越ブロック・東海北陸ブロック・近畿ブロック・中・四国ブロック・九州ブロックと六ブロックに分けています。

各ブロック大会の終了後は十月に集大成として食品衛生全国大会が東京にて開催されます。

去る七月十七日に九州ブロック大会・連絡協議会がブロック大会の前日に沖縄県にて開催されました。

連絡協議会は九州各県と福岡市・北九州市の十支部で会長・専務理事・指導員部会長・事務局で構成されています。

会議では、指導員部会・事務局・支部長会議で事前に募集した提案を議論し翌日のブロック大会にて報告

発表を行います。また、日本食品衛生協会の指針を基

大会準備雑感

専務 高江洲 章

私は、過去二回の大会を体験していますが、沖縄の独特の文化や価値観が来訪者に伝わる工夫や来訪者にも尊重されることが沖縄らしさを続けるには必要なことだと思います。旅は、地域や他国の異いを認めることが第一だと思います。

近年、全国チェーンを売り出し、全国どこに行っても同じという形態が増えていきます。沖縄に沖縄らしい独自の店が創り出されなければ、長い目で見て、東京と同じという状態になれば

に活動報告されます。

連絡協議会の指導員部会の議題内容は議題が六つ挙げられ事務局会議に於いては時間内で処理出来ない数の提案があり、議事内容は長い文章となりますので、割愛させて頂きます。

指導員部会では指導員の確保・啓発資材・ハサップ

等の取り組みについて話し合われ、各地の地域性を尊重し、組織の活性を図ることで合意しました。

結びに会員の高齢化が進み若手指導員の育成が急務で有り、組織を持続するための会員拡大は不可欠で会員皆様に更なる協力を頂き、お願いを申し上げます。

九プロ大会にしていきたいと思っていますが、大量なお客様のおもてなしや、灼熱の太陽にてらされ熱中症になやまされると沖縄での大量誘客が適正かどうか考えあぐんでしまう。

今回の大会も前日の午後

より五十名程の指導員が集まり、資料を袋に入れる係、その袋を参加人数で仕訳ける係と参加者の多さにとまどいながら準備を終えることができた。それは、また室内での作業だったので沖縄の熱さを感じないで済ませたのだが、当日の駐車場の係は、熱中症で、救護班のお世話になった。塩分チャージも水分補給もおこたならなかったが、沖縄の熱さにやられたようだ。甲羅焼きで、病院に入院するはめになる人もいると聞く。食の安心安全を実現し、健康と豊かな経験が出来る観光地をめざしましょう。

全国大会開催

会長表彰に仲村清美さん

二〇二四年（令和六年）十月二十三日（水）

から、二十五日（金）までの二泊三日の日程で公益社団法人日本食品衛生協会の全国大会が開催さ

れました。

今回は六三回目にあたり六三年の歴史をきざむ年になります。場所は、浅草公会堂が会場となりました。

各ブロックから十二名の体験発表がありました。が、九州ブロック代表として稲福栄子さんが発表しました。

食品衛生協会会長表彰は明治座で行われ、仲村清美さん（南地区）が中部支部から表彰されました。指導員の先頭に立って頑張ってください。

勘や経験でなくハサップの徹底 新しい時代へのチャレンジ

二〇二一年六月から「ハサップ」に沿った衛生管理が制度化されました。沖縄県の全ての食品衛生関連事業者に於いても、増加する外国人観光客や食生活のグローバル化、高齢化社会の到来などの変化に対応することが求められています。

私たち指導員は、県内の事業者にはスピード感をもって正確な情報を伝えることが重要だと提えて活動をし

ています。制度化三年前の二〇一八年度の中部支部指導員研修会では、ハサップの制度化の取り組みに重点をおき、前半は、概論の説明、後半は、例題をもとにワークショップ形式で取り組みました。

受講する指導員がハサップのノウハウを身につけられるように「ハサップの考え方を取り入れた衛生管理のための手引書」を参考に

のような研修会に参加して日々スキルアップを図り、講習会や巡回指導では、お互いのコミュニケーションを取りながら、事業者の事情をふまえた「導入しやすい内容」を心掛けて指導しています。

また、食品の安全は、勘や経験に頼るのではなく、「記録に残し、管理する、見える化の衛生管理」の仕組みを各事業所に確立する

ことが求められています。
H＝本当に、A＝危ないところは、C＝ちゃんと決めて、C＝チェックして、P＝ペンで記録する。

HACCP＝ハサップのポイントを徹底することが食の安心安全を担保するものとの認識で衛生管理の普及活動を「みんなでチャレンジしましょう」と呼びかけてきました。

沖縄県がハサップのリーフレットを作成し、指導員が事業者に説明しています。

これからも沖縄県食品衛生協会は県と協力して、ハサップにもとづく衛生管理

の考え方をすべての事業者が導入できるように普及活動を展開していきます。

食の安全は、お客様の健康ばかりではなく事業自身も守られることを訴えます。

施設の安全点検

H = ほんとうに
A = 危ない所は
C = ちゃんと決めて
C = チェックして
P = ペンで記録する



▲報告する稲福栄子さん

「何故、記録が必要なのか」の理解を促しながら、各自の店舗の衛生管理計画・重要ポイントを作成、それぞれ実施したことを確実に記録してもらい、それを毎日継続し、一カ月に一回は、記録を見直すことで、衛生管理の向上につながることを共有しました。

私達指導員は、こ

上益城支所 からのお礼

去った九州ブロック大会に参加した熊本県上益城支所から中部支部にお礼の品が届きました。平成二十八年四月の熊本地震で上益城支所は壊滅的な被害を受けました。中部支部は設立の際に上益

城支所を手本に多くを学ぶ事が出来、今日にいたります。熊本地震の事を知った時、中部支部は如何するか理事会で協議しました。中には設立の時の事情を知らない理事も多くなくなっていましたが、幸いにも設立当初の役員であった内間氏が支部長を務めていましたので、理事会に於いて設立時の説明を行い理事の理解を

得て、少額ではなく十分に役立つ位の見舞金を送る事を決め早速送りしました。中部支部としては災害時に役に立ててほしいと願っていたのですが、上益城支所は我々が考えている以上に被害がひどく悲しんでいるところに中部支部より思わぬ高額な見舞金で大変喜び将来の希望が持てたそうです。